

## 地方センター病院に求められる、夫立ち会い分娩を希望する 夫婦への保健指導・看護サービスのあり方

星 純江<sup>1)</sup> 杉浦 順子<sup>1)</sup> 君山 香織<sup>1)</sup> 砂子亜里沙<sup>1)</sup> 蓑島かおり<sup>1)</sup>  
長尾有希子<sup>1)</sup> 有澤美由紀<sup>1)</sup> 工藤 仁美<sup>1)</sup> 川村 光弘<sup>2)</sup>

### はじめに

当院は上川北部地域において唯一の分娩施設である。近年、夫婦関係のあり方に関する意識の変化などを背景として当院でも夫立ち会い分娩は年々増加傾向である。当院の全分娩のうち約半数が市外在住者であることから、遠隔地在住の夫婦が夫立ち会い分娩をする際に配慮すべき点・改善すべき点は何かと考え本研究をおこなった。

### 目的

広大な医療圏で唯一の分娩施設である当院において、遠隔地在住の夫婦が夫立ち会い分娩を希望する時、どのような保健指導・看護サービスを求めているのかを明らかにする。

### 対象・方法

#### (1)研究対象

平成14年7月1日～平成15年7月31日までに当院で分娩した夫婦482組

#### (2)研究方法

##### アンケート調査

アンケートは独自で作成し、妻・夫それぞれに年齢、経産回数、住所などの背景因子と夫立ち会い分娩の満足度、当院の出産環境における満足度、出産時の看護スタッフの対応における満足度、改善して欲しい看護サービスなど夫立ち会い分娩に関連した項目をあげた。アンケートの中で、市内在住者を市内群、里帰り分娩の道外在住者を含む市外在住者を市外群とした。また、夫立ち会い分娩をした夫婦を立ち会い群、しなかった夫婦を非

立ち会い群とした。満足度は「とても満足」「満足」を満足群、「やや不満」「不満」を不満足群とした。

アンケート調査に際して、文章にてアンケート調査内容は研究以外では使用しない旨を説明した。

分析方法は単純集計、 $\chi^2$ 乗検定を用いた。統計ソフトはJSTATを使用した。

### 結果

アンケート回収率は482組中270組(56%)であった。市内群118組(43.7%)市外群152組(56.3%)であった。(図1)

市内群の立ち会い群は56組(47.4%)、非立ち会い群は62組(52.6%)、市外群の立ち会い群は56組(36.8%)、非立ち会い群は96組(63.2%)であった。(図2)

立ち会い分娩の有無の割合において市内群と市外群では有意差はみられなかった。

夫立ち会い分娩をした理由は市内群・市外群ともに「夫婦の希望」が最も多かった。(図3)夫立ち会い分娩をしなかった理由は市内群・市外群ともに「夫の希望」が最も多かった。(図4)しかし、夫立ち会い分娩をしなかった理由が「間に合わなかった」は、市内群が1組であるのに対し市外群では10組であった。また、「遠方のため来られなかった」は道外在住者をのぞいても市外群に15組いた。

分娩前の学習の内容では「当院の母親学級を受講した」は市内群妻40人(33.8%)、市外群妻19人(12.5%)であり、市内群妻の割合が有意に認められた。(p<0.01)夫では市内群3人(2.5%)、市外群5人(3.2%)と共に低率であり有意差も認められなかった。(図5)

夫立ち会い分娩における満足度については市内群の妻の満足群は46人(82.1%)、不満足群は0

<sup>1)</sup> 名寄市立総合病院 3階西病棟

<sup>2)</sup> 名寄市立総合病院 産婦人科

人、夫の満足群は41人（73.2%）、不満足群は2人（3.5%）市外群の妻の満足群は48人（85.7%）、不満足群は2人（3.5%）夫の満足群は51（91%）、不満足群は1人（1.7%）であった。（図6）

市内群の夫婦、市外群の夫婦における立ち会い分娩の満足度に有意差は認められなかった。

当院の出産環境における満足度（図7）、出産時の看護スタッフの対応における満足度（図8）についても、市内群の夫婦、市外群の夫婦ともに有意差は認められなかった。

改善してほしい看護サービスについて、妻・夫それぞれに各項目を市内群・市外群で比較した。

（図9）

「夫に分娩経過を説明してほしい」が、市内群妻32人（27.1%）、市外群妻61人（40.1%）、市内群夫26人（22%）、市外群夫35人（23%）であった。市内群妻と市外群妻では市外群妻の割合が有意に高かった。（ $p < 0.05$ ）

夫では市内群・市外群における有意差は認められなかった。

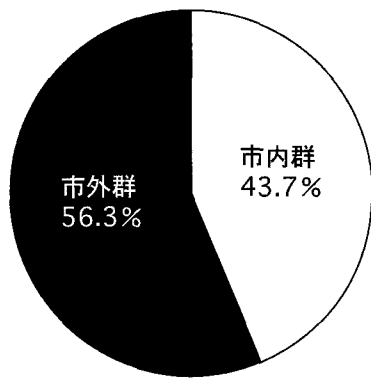


図1 市内群・市外群の割合

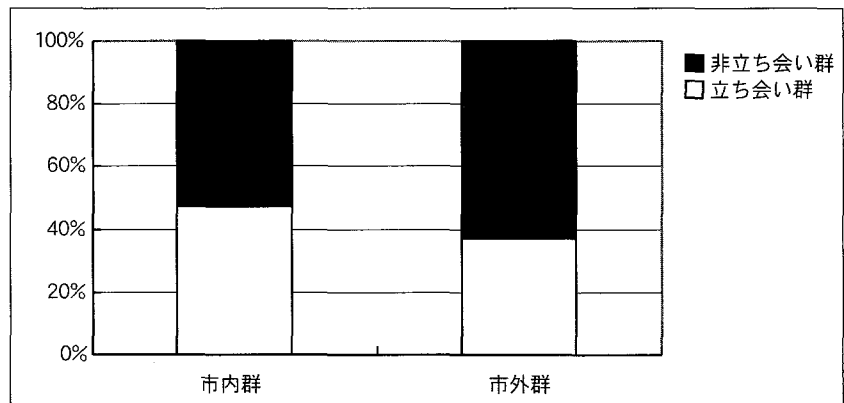


図2 立ち会い群・非立ち会い群の割合

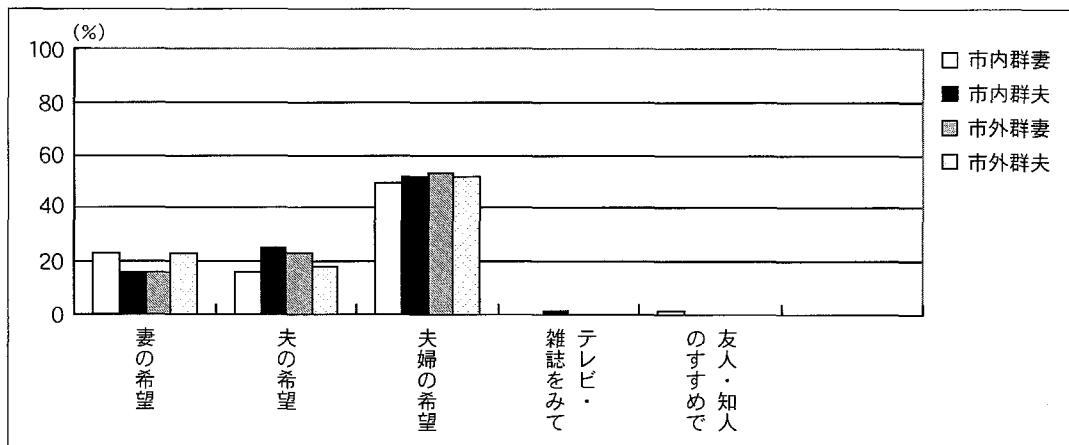


図3 夫立ち会い分娩をした理由

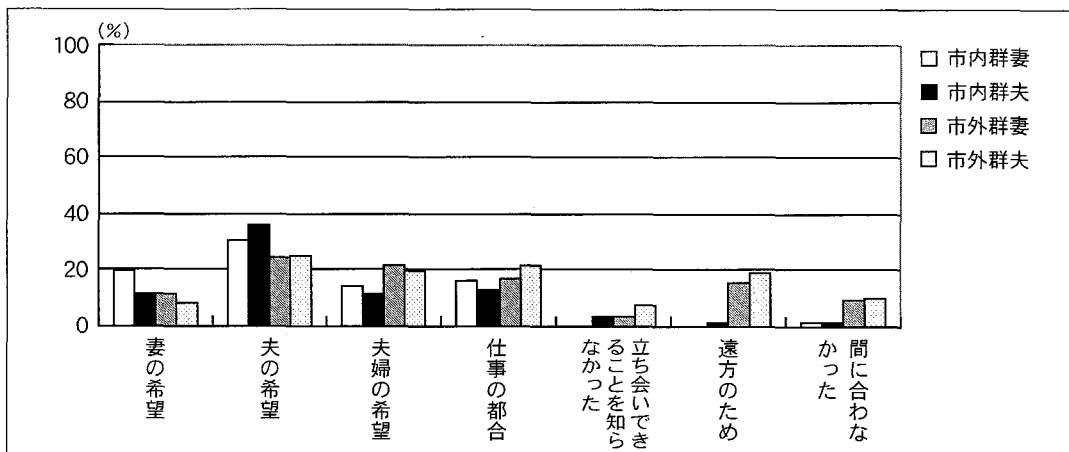


図4 夫立ち会い分娩をしなかった理由

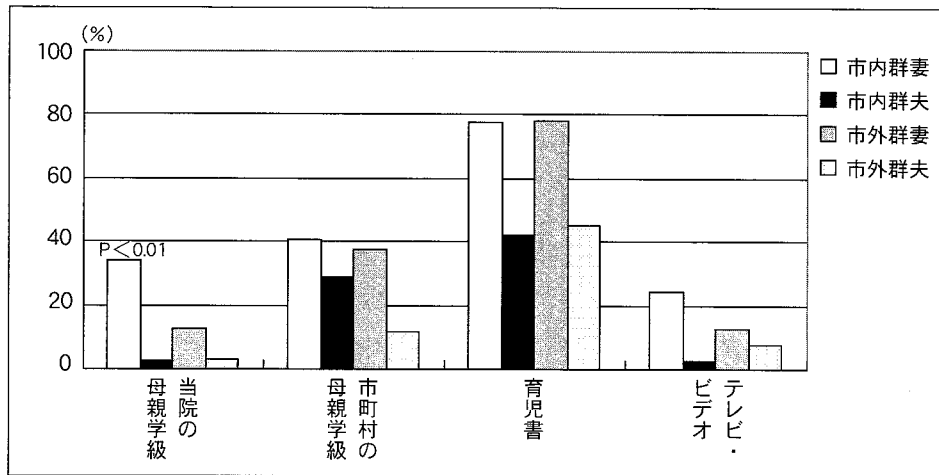


図5 分娩前学習の内容(複数回答)

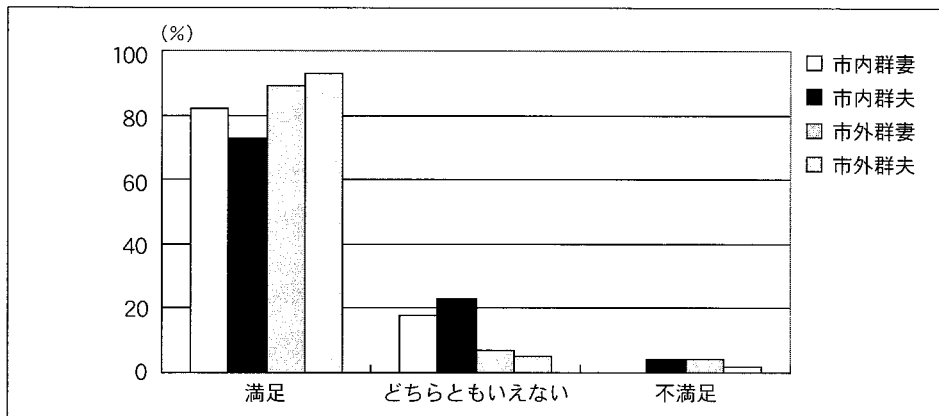


図6 夫立ち会い分娩の満足度

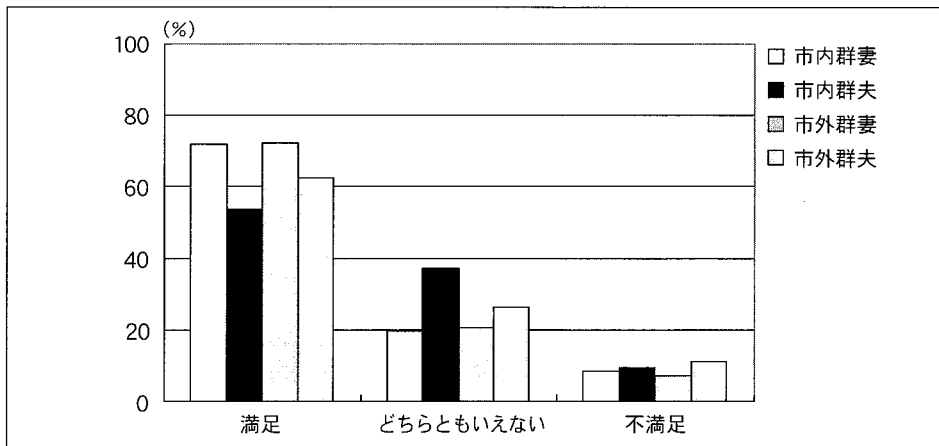


図7 当院の出産環境における満足度

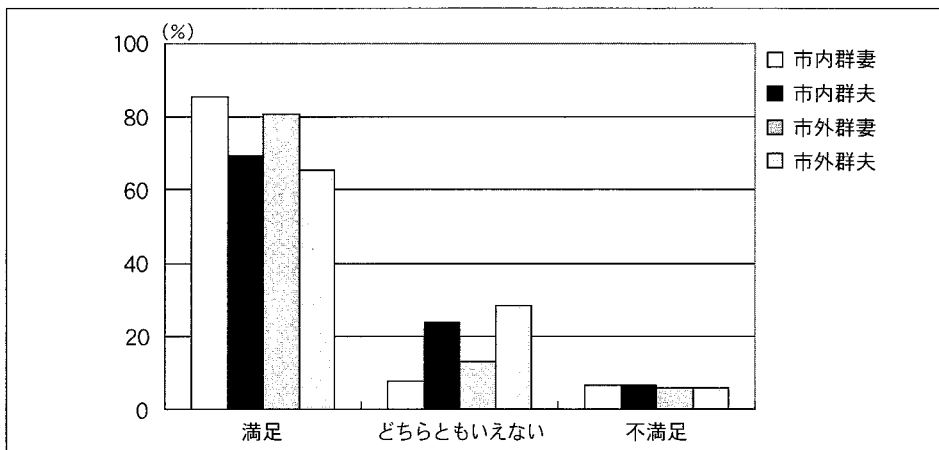


図8 出産時の看護スタッフの対応における満足度

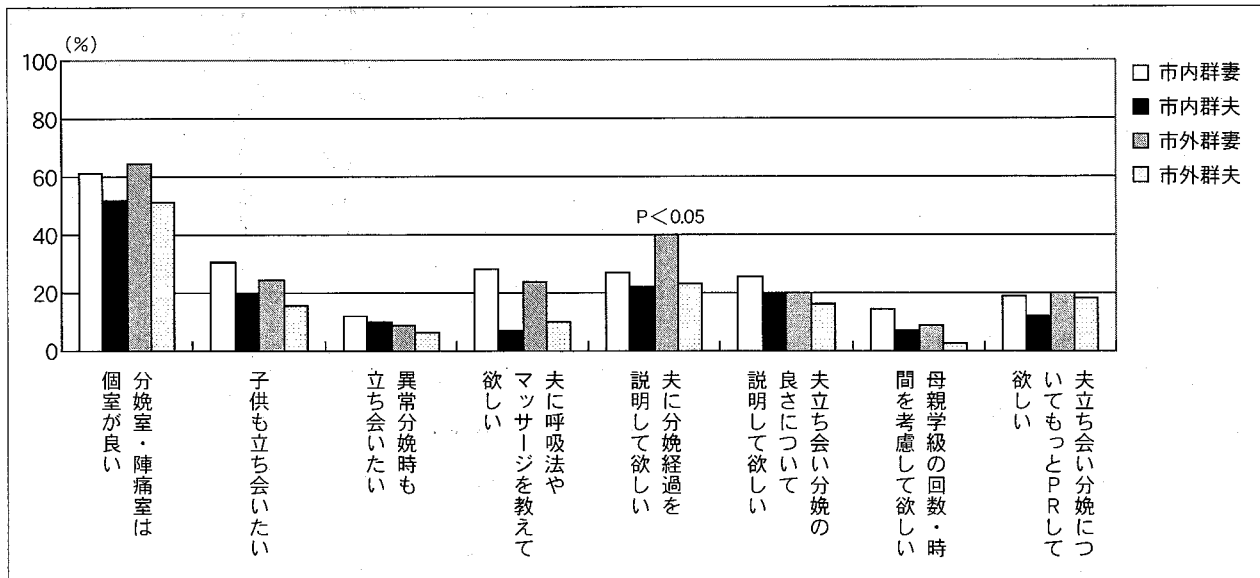


図9 改善してほしい看護サービス(複数回答)

## 考察

夫立ち会い分娩の件数において、市内群と市外群では有意差はみられなかった。しかし、夫立ち会いをしなかった理由の「間に合わなかった」、「遠方のため来られなかった」という回答を合わせると市外群の約16%の夫婦が居住地からの距離の影響を受け夫婦の求める分娩を経験できなかったことになる。広大な医療圏をかかえ、唯一の分娩施設である本院においては看護サービスの提供にも限界があるといえる。

また、本院周辺は分娩施設の集約化が進み、今後距離的な問題で夫立ち会い分娩できない夫婦が増える可能性がある。アンケートの中で「夫に分娩経過を説明してほしい」という回答が市外群妻で有意に高かったことから、距離的な問題に対して夫への説明がより求められているのではないかと考えられる。遠隔地在住の夫婦に対し分娩経過をわかりやすく十分に説明することの必要性を再認識した。

加えて、市外群の本院の母親学級の受講率は妻、夫共に低率であり、多くの市外群の夫婦は分娩入院時にはじめて、本院での分娩管理や夫立ち会いの内容を知ることになる。母親学級に参加することにより、知識だけでなく夫婦間で分娩時の相談が事前に行えるのではないかとと思われる。本院の母親学級は月1回のため、遠隔地在住者を考慮して回数・内容ともに再考すべき時期にきていると考える。

本院では病棟助産師による外来での妊婦指導は実施していない。しかし、病棟助産師が外来で妊婦指導をすることで、遠隔地在住妊婦の分娩時のニーズの確認や分娩時を想定した説明が可能になると考える。現在、少ない病棟助産師の中で、外来での保健指導実施の試行段階にはいつている。

次に、市外群妻・夫ともに低率ではあるが、本院で夫立ち会い分娩ができることを知らなかったと回答しており、市外群の妻では約20%、夫では約18%が夫立ち会い分娩についてもっとPRしてほしいと望んでいた。このことから、我々の広報不足・情報提供不足が明らかとなった。早急に実現できる方法としてホームページの開設と考える。そうすることで遠隔地在住者にもタイムリーに病院から情報発信・情報提供し、各種相談にも応じることができるのではないかと考える。

また、固定チームナーシング制導入に伴い、退院後の褥婦や新生児の訪問の依頼を地域の保健師に依頼することもふえてきている。そのため、今後は分娩後にとどまらず、分娩前より地域の保健師と連携して本院での分娩に関する情報を広報していくことが必須であると考えられる。

## おわりに

本研究により、今後の課題として以下のことが明らかとなった。

1. 母親学級の改善
2. 夫立ち会い分娩のPR

3. 病棟助産師による外来での妊婦指導
4. 固定チームナーシングを生かした地域の保健師との連携

参 考 文 献
---------

- 1) 高井さゆり, 清水容子, 金子知代他: 立ち会い分娩を経験した夫の妻や分娩に対するイメージ変化, 第28回日本看護学会論文集—母性看護—: 11~14, 1997
- 2) 久重和子, 岡本加代子, 小田洋子他: 立ち会い分娩のための夫向けパンフレットの効果, 第25回日本看護学会論文集—母性看護—: 24~26, 1994
- 3) 谷口二郎: 分娩時の夫、家族へのサポート—立ち会い分娩を中心として, 周産期医学: vol30, no6, 779~782, 2000
- 4) 小出晴美, 荒木佳子, 渡辺芳美: 倉敷中央病院の両親学級・立ち会い分娩の実際と夫の意識変化, 助産婦雑誌: vol49, no7, 564~569, 1995
- 5) 竹内美由紀, 田中真美, 杉山千鶴他: 夫立ち会い分娩の意識調査, 第27回日本看護学会論文集—母性看護—: 29~31, 1996
- 6) 大西アヤ子, 谷川安子, 小原沢栄子他: 夫立ち会い分娩をしない夫婦の意識, 第27回日本看護学会論文集—母性看護—: 38~41, 1996
- 7) 関根憲治: 夫立ち会い分娩の問題点と対策, 周産期医学: vol23, no7, 1037~1041, 1993
- 8) 森田健一, 岡田由香, 久納智子他: 現代夫婦の夫立ち会い分娩に対する意識について, 愛知母性衛生学会誌: 第16号, 103~110, 1998
- 9) 堀口貞夫: 夫立ち会い分娩, 周産期医学: vol21, no10, 1539~1541, 1991
- 10) 三浦好美, 清水ゆかり: 夫立ち会い分娩に関する夫婦の意識の違い, 第32回日本看護学会論文集—母性看護—: 11~13, 2000
- 11) 仁木ひろみ, 佐々木恵, 田中ひろみ他: 看護の質の評価—患者満足度調査と看護婦アンケートより—, 第29回日本看護学会論文集—看護管理—: 244~246, 1998